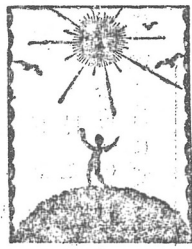


# 電丘時報

昭和六年十二月十七日印刷  
昭和六年十二月十八日發行  
（毎月十日發行）  
長野縣下伊那郡電丘村五三番地  
發行所 中田 史 郎  
印刷所 中田 史 郎  
代表者 原 清 司  
長野縣上飯田町四五五番地  
印刷所 中田 史 郎



## 圖書館便り

時報附録として圖書館便りを村人に捧げる。

××  
数字は別に面白くないものだけれども別欄圖書貸出の統計は一年間の圖書館利用状況のバロメーターであると共に社会的に館の重要性が延びつゝある證據であると思ふ。

××  
個人々々で書物が買へて読める様な餘裕は今の農村に無い社會の種々な現象は益々複雑化し、文化の進展は人間の知識をどん／＼未開の領域に擴大する。

××  
青年は常に流轉し發展する文明知識の欲求に燃えて居るかゝる折に大衆の最も良き學校となり、教師になるだらうところのものは圖書館である

××  
十一月一日から七日迄の全國讀書週間に際して圖書館は村内各所に『吾等の圖書館を利用せよ』との『ポスター』を貼り出して、其の週刊を宣傳した。村の人々の多數利用を巻頭に望む次第である。

(K 生)

## 記事

### 讀書デー

（十一月七日）  
座談會開催

全國的讀書週間の終りの日十一月七日に青年會圖書部主催で愛讀者座談會を小學校記念館に開いた。

出席者は男女三十四名（内講者二十名、女十四名）定刻七時半に開會

はじめには圖書館の貸出方法はじめに、管理方法等に對する讀者としての希望や批評や種々の意見が交換された。

××  
團體貸出（各區支會其他）毎月十四日一回の交換日を月二回位にしては如何と云ふ希望が成可圖書の廻轉を良くする爲にどの趣意から出たのでそれを基にして貸出の方法等相當議論の中心になった。

## 圖書館への希望

### 百姓は「から考へる」

（自作農）

一昨年の終り近くになつて突然アメリカを襲つた株式恐慌は遂に神國と言はれる日本までもその中にひつ

るめて世界の大部分を不景氣のどん底につきおとした。丁度日本はその頃民政黨内閣が金解禁を看板にあらゆる言論機關を動員して、金解禁なんてなんのこたか一寸も分らない俺達に、金解禁をやり

さへすれば極樂のやうな好景氣が来るんだと吹き込んで呉れて居た。何が何だか分らないが今に偉い人達が俺達に楽しいくらしを授けて呉れるんだなど期待を掛けて待つて居た。所がどうだ年が明けて金解禁がいよいよ斷行されたと言ふことは聞いたがねつきらくらし向きが良くなるならいじやないか、それだけならまだ良いんだが俺達にとつて命の綱とも頼む糸の値が一日一日に下つて行く、今年も藪が安くなりそうだといふ心配が方々から聞えて来た偉い人達があれほど言つたんだからそれでもと思つていつもより氣張つてうんと働き餘計に藪を取つて生産へ持つて行つた。四圓そこ／＼しか貸して呉れないんだ全くがつかりして居たが夏秋の儲を樂しみに桑畑の手入れなどに一生懸命働き無借金で暮らして夏蠶、秋蠶を飼つた。藪にして見たら春より尙悪い、一貫目二圓位しか貸して呉れりやせん。

最近に或ひは今迄に讀んだ本で特に自分が興味深く感じたのを話す人もあれば其の概略を發表する人も、又過去からの讀書の種類の変化を語る人も更に最近の生活の周圍に起つた、社會の種々な問題に對する觀方を話す人も出席者が相互に教へられた點が多かつた。

上にどうしても必要だつたから借りたんだ。せいたくする爲や醫者買ひする爲に借りた金ぢやない。五大強國とか三大強國とか言ふ日本の國民として相應しい生活を爲す爲にどうして必要だつたんだ子供も何もみんな餓死させる丈の度胸がありさへすれば或は出来なかつた借金かも知れん。善良な日本國民として殊に忠孝の道を説き聞かされて居る日本國民としてそんなことはどうしても出来なかつたんだ。そんなわけでも元金は勿論利子さへろくに拂つて来れなかつた借金なんだ。今までさへそんなわけの所へ去年今年の有様だ。いくら善良な意思を以つて居たとしても銀行家や金貸の言ふ通りにやつて行けないのだ、其處へ以つて来て還慮會釋もなかつて来るのが役場からの切符だ。みんな借金のかたに這入つて居る。田畑や宅地や家への掛りものだ、これが又好景氣時代からちつとも安くならない生じつが田畑や家を持つて居る爲に、一方では借金のかたに這入つて居る田畑をとり上げられて了はんやうに利息拂ひに散々苦勞する。實際の所俺達から田畑をとられて了ふことは身を切られるやうに辛いことなんだ。又他方ではその田畑に重い税金が掛つて来る、なんだか二重に取られるやうな氣がしてしやうがないんだ、いくら骨を折つても借金が出来て行くそんな利益のちつともない、田や畑に重い掛り物のあるはどうしても合點が行かない。

迎します。圖書館に圖書の寄贈を歓迎します。個人の書棚から圖書館の書棚へ。かくて其の書籍は最も多數の欲求者に感謝の念のうちに利用されるでせう。書籍の種類は何でも結構です。（冊数は何冊でも）吾々の村の唯一の圖書館へ並に一般讀書子の爲に理解ある諸人の書籍寄贈をお願ひする次第です（電丘圖書館）（青年會圖書部）

## 書籍の寄贈を乞ふ

個人の書棚より圖書館へ……

泰西の或る名畫に國王と僧侶と軍人と農夫とが描いて其の上に簡単な讀が書いてあつた。  
國王曰く『吾は萬民を統治するものなり』と  
僧侶曰く『吾は萬民のため祈禱を捧げるものなり』と  
軍人曰く『吾は萬民のために戰爭する者なり』と  
其の次に農夫は懐中より財布を取り出し乍ら悲しげに曰く、  
『吾はすべての經費を負擔して働く者也』

百姓とは？  
を出来る丈けつとり早く呑みこめるやうに役立つこととが書いてある本を電丘圖書館が買つて俺達に讀ませてくれるやうに切に願ふ。修養、精神、訓話、學者扱つた奴等の『農村……』と言ふやうなものは今の俺達の要求を充ててくれるものではない。（完）

各分類別閲覧冊數

Table showing book circulation statistics by department (e.g., 宗教哲學, 教育修養, 歴史地理) and month (e.g., 一月, 二月, 三月).

下伊那郡各村圖書狀況圖

Table showing library status for various villages in the Shimane region, including village names and establishment dates.

『家の光』購読状況

Text describing the subscription status of the magazine 'Ikebana' (家の光), mentioning its popularity and distribution.

都文化の宣傳と化粧品や田舎では真似の出来ぬ様な手藝やお料理の記事で埋まつて居る其處等の婦人雑誌とは全々異つて居る家庭向實用記事と娯樂とお爺さんから子供迄家内中誰でも読んで爲になる雑誌として断然評判が良く毎年愛読者が増加しつゝある定價は壹冊二十錢なれども割引拾五錢宛で實費配布して居るさうである

書籍の大きさの名稱

Text explaining the names of book sizes (e.g., 菊判, 小判, 大判) and their dimensions, such as '長き三尺一寸中二尺一寸程の洋紙全紙を十六に切つたもの'.

法制經濟社會之部

- List of books in the Law, Economics, and Society section, including titles like '政治の貧困' and '支那の真相'.

産業之部

- List of books in the Industry section, including titles like '産業組合論' and '肥料詳説'.

地理歴史之部

- List of books in the Geography and History section, including titles like '日本文化史概論' and '滿洲とはどんな處か'.

美術諸藝之部

- List of books in the Arts and Crafts section, including titles like '新圖案の基礎' and '音楽に志す人々へ'.

理工醫之部

- List of books in the Science, Technology, and Medicine section, including titles like '療養新道' and '飛行機の科學と藝術'.

購入書籍名 (Purchased Book Titles) section listing various books and their publishers, including '文語之部' and '宗哲之部'.

教育修養之部

Text discussing education and self-cultivation, featuring an illustration of a person reading and the title '解せぬ者へ' (To those who do not understand).



Main body of text on the right side of the page, continuing the discussion on education and self-cultivation, mentioning '朝日新聞' and '朝日公民讀本'.